

「^お上山城^ろ」からのたより 晩秋・第172号

もうクドイかもしれないませんが…上山ゆかりの建築家 佐野利器に
関する『あれやこれや』
公財) 上山城郷土資料館学芸員 長南伸治

前々号から上山ゆかりの建築家 佐野利器を取り上げていますが、もうクドイかもしれません、今回も同人に関するお話しをさせていただきます。まず、これまたクドイかもしれませんが利器の略歴を記しておきます。

利器は明治十三(一八八〇)年に山形県荒砥(現白鷹町)の山口家に生まれ、米沢中学在学時に上山町の佐野家の養子となり、その後、旧制第二高等学校から東京帝国大学建築科に進学し耐震建築の研究に取り組み、大正四(一九一五)年、家屋耐震構造論で工学博士号取得。以後、関東大震災後の復興事業の委員を務め、東京帝国大学・日本大学・東京工業大学で教鞭をとるなど、長きにわたり第一線で日本の建築界をリードした人物となります。

今回はこの利器について意外と知られていないマニアックな知識を三つご紹介

【常設展示室から】抽選で景品が当たる、クイズ上山城探検、を毎月実施中。クイズを解きつつ、ご見学をお楽しみください。



(企画展展示風景)

その一 なぜ「利器」と名付けられた？
佐野家養子入り後、名を「安兵衛」から「利器」に改めています。「利器」の名は養父誠一郎が命名していますが、その由来は、中国の古い書物の一節「盤根錯節に遭はずんば以て利器を別つなし」(難しい問題に出会わなければ、能力ある人物(利器)を見分けるのは難しい)の中の「利器」にあつたとされています。
その二 なぜ利器は「建築」の世界に進んだのか？

利器が旧制第二高等学校入学後間もなく、進路(志望の大学と学科)調査があまりした。利器は「電気」か「造船」が学べる学科にし

ようと考え、そのことを養父 佐野誠一郎に相談したところ、「一人でやれる仕事に就くのが良く、そういった仕事は建築だろう」とアドバイスを受けて、「建築」の世界に進む決心をしたとされています。

その三 利器と渋沢栄一
昭和四(一九二九)年、利器は東京帝国大学を辞し清水組の副社長に就任します。この副社長就任は、あの日本の近代化の立て役者の一人 渋沢栄一に頼まれ引き受けたものでした。しかし、会社経営は性に合わないことを悟り、同七年に退社してしまいました。

最後に、更にクドイかもしれませんが、上山城では利器の業績や人柄を紹介する企画展を今月二十六日まで開催しています。この機会に耐震構造学の大家 佐野利器について学んでみてはいかがでしょうか？皆様のお越しを心よりお待ちしております。